

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成26年12月15日（月）～平成26年12月21日（日）〔平成26年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は23.78人と前週（13.37）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は15.24人と前週（15.73）からほぼ横ばいで、例年とほぼ同じレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.33人と前週（2.79）からほぼ横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。

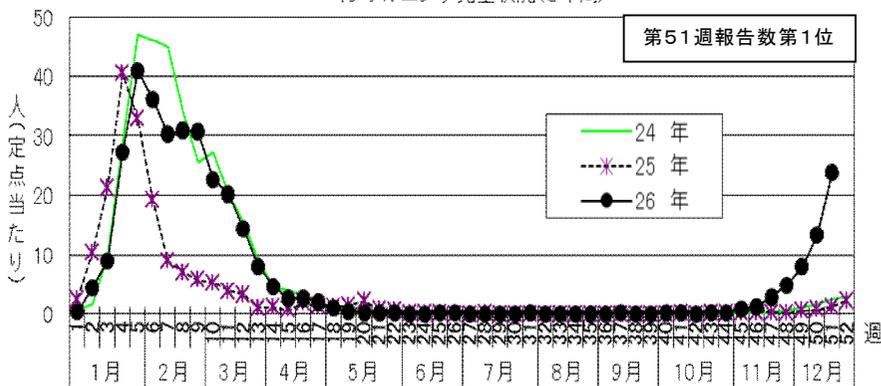


## インフルエンザに要注意！！

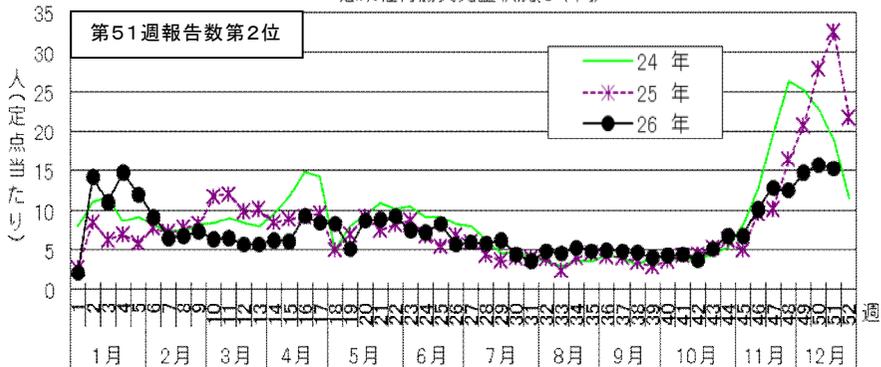
川崎市では、第51週におけるインフルエンザの患者報告数が定点当たり23.78人と、流行発生警報基準値（定点当たり30人）に近づいています。  
 なお、川崎区（定点当たり33.63人）と高津区（定点当たり32.63人）では、すでに警報基準値を超えています。

年齢別では、5～9歳の報告が最も多く、次いで10～14歳が多くなっています。小児の集団生活の場では、特に感染予防対策の徹底が重要です。

インフルエンザ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)

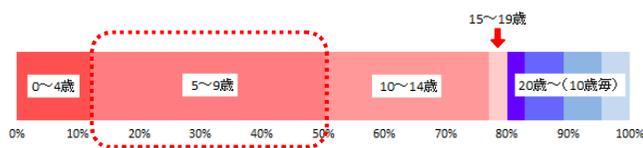
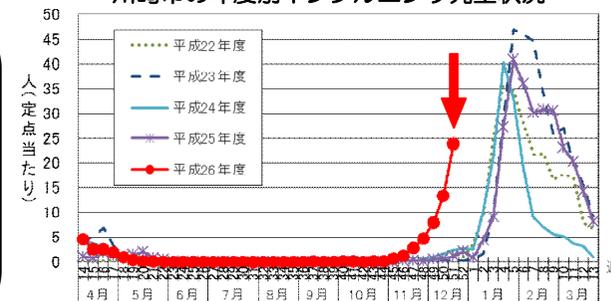


### <感染予防のポイント>

- 手洗いの徹底
- マスクの着用
- ワクチン接種
- 適度な湿度の保持
- バランスの取れた食事
- 不要な外出を控える



川崎市の年度別インフルエンザ発生状況



川崎市の年齢別インフルエンザ発生状況（第51週）